

専門医に
聞きました!



開頭手術とカテーテル治療の 二刀流で救急医療に尽力 患者に寄り添う外科医療を実践

2024年1月に兵庫医大から赴任してきた徳田先生。救命救急を担う
青山脳神経外科病院を牽引する先生の医療に対する想いを伺った。

治療の二刀流に力を注ぎ 兵庫医大のリソースも活用

脳梗塞や蜘蛛膜下出血、脳出血の治療を主軸に交通などによる頭部外傷、脊椎損傷などに対応する青山脳神経外科病院。1月に赴任した徳田部長を中心に、開頭手術とカテーテル治療の二刀流に力を注いでいる。「脳梗塞に対する血栓溶解薬tPAの使用やそれに続く血栓回収療法等を行うことで、出来るだけ多くの患者さんを社会復帰に繋げたいと考えています」と話す徳田部長。兵庫医大からのサポートを受け、夜間等の救急にも対応。遠隔で画像を確認できる機器を用いた連携で、瞬時に情報共有も行なっている。



1. 救急対応に関して、頭部の検査をして他院に転送するなどの対応も迅速に行う。
2. 開業医をされている父親からのアドバイスもあり、患者情報は紹介元へ迅速にフィードバックすることで、病診の信頼関係を築いている。



救急の処置室と画像室、検査室が非常に近く、短時間で検査が行えるのが利点。

医療のスキルだけでなく 患者に寄り添う外科医療を

刻一刻と状況が変化する脳神経外科の救急治療において、徳田部長は家族への説明にも細心の注意を払う。「後遺症が残ることが多い脳神経外科の分野では、医学的に手術の成否と患者が元通りに元気になることは必ずしもイコールではありません。その点をしっかりと伝え、一般の人が理解できる温かいコミュニケーションが大切だと思いますね」。医療のスキルだけでなく、患者や家族に寄り添う外科医療を大切にしている徳田部長。今後は病診連携を含めた地域の救急の体制強化にも力を注いでいく。



医療法人 ラポール会 青山脳神経外科病院

徳田 良 脳神経外科部長



脳梗塞等の理解を深めてもらうために、地域の講演会や疾患講座などの開催も検討している。

hospital data

医療法人 ラポール会 青山脳神経外科病院 / EL:072-953-1211 藤井寺市野中2-91 <https://www.aoyama-med.gr.jp/medical-rapport/aoyama-neuro/>

▶ 医療詳細ページ有り ●●●P